

日本生産性本部
主席経営コンサルタント
大場 正彦



(おおば まさひこ)

1969年生まれ、北海道出身。慶応義塾大学経済学部卒。金融機関にて、融資業務を担当し、主として企業の経営指導、与信判断業務に従事。企業派遣により、「日本生産性本部経営コンサルタント養成講座」を修了。放送局に転身し、編成業務等を担当するかたわら、中期経営計画立案、業務改善、人事制度改革等の活動にも従事。その後、日本生産性本部の経営コンサルタントとして、組織・人事マネジメントのコンサルティング、階層別研修や問題解決、タイムマネジメント等の教育研修にあたる。EQJ公認プロファイラー。米国NLP (TM) 協会認定NLP (TM) プラクティショナー。経営品質協議会認定セルフアセッサ。著書として『企業経営の理論と実践』(共著、学文社)『ポスト成果主義の人事考課・賃金体系実例集』(共著、政経研究所)がある。

「このままではいけない」という思いから、キャリアをリセットし、仕事も組織風土も全く異なるテレビ局へ転職し、そこでも未来設計図を自分の意思決定と行動の旗印として経験を積み重ねた。その時々状況によって未来設計図を書き換えることはあるが、今現在、自分が思い描いた理想の姿に近づいており幸せであると自信をもって言える。これまでの経験から、個人でも組織でも未来設計図を具体的に描き、その時々環境変化に適切していくことが極めて大切である」というメッセージ

●未来設計図と環境適応

大学卒業後、銀行、テレビ局に勤務後、日本生産性本部の経営コンサルタントとして約20年間経営コンサルティング業務に従事してきた。銀行とテレビ局、そして経営コンサルタントと一貫性のない職務経験のようだが、自分なりの思いを大切に、その時々環境に適応してきた結果でもある。20代に受講した研修

が大きな転機となった。その研修の中で講師が参加者に「皆さんが今の会社にいる理由はなんですか」。この問いに対して私は、「これまでの生き立ち・経験、現在の興味の観点から」ともあり、将来のありたい姿から今を説明するタイプである。そして世の中で成功する可能性が高いのは後者である。私は前者になるわけで、かなりのショックを受けた。また当時、勤めていた銀行が破綻したこともあり、将来のありたい

理想の姿を思い描く

8割の人間は過去から現在の流れの中で今を説明するタイプであり、もう一方の2割の人間は将来のありたい姿から今を説明するタイプである。そして世の中で成功する可能性が高いのは後者である。私は前者になるわけで、かなりのショックを受けた。また当時、勤めていた銀行が破綻したこともあり、将来のありたい

すると驚くことにそれを描く過程で、知らず知らずのうちに自分の意識・行動が変わっていったのである。

来設計図を具体的に描き、その時々環境変化に適切していくことが極めて大切である」というメッセージ

を説き続けている。情報の外側にある言語化されていないものを見極める

頭が痛い時は薬局に行っ て相談すれば頭痛薬を出してくれる。それで治ることもあるが、痛みが治まらないとか、どうも調子が悪い という場合には病院へ行って医者に診てもらおうだろう。そこで医者は患者の日々の生活習慣などをヒアリングし、必要な検査を行い、病気の本当の原因を特定して治療してくれる。私も医者のように、クライアントが言語化できない、あるいは気づいていない隠れたニーズや課題を探り出し、最適なソリューションを提供したい。そして、単にノウハウを伝えるだけでなく、クライアントが自力で進められるように、一緒に実行

していく経営コンサルタントでありたい。生成型AIの進化には驚かされるばかりだが、現時点では適切なプロンプトを入力しなければ、本質的な解答を導き出すことはできない。聴き手が本当の課題に気づいていなければ、聴き手の意識の範囲内にある解しか導きだせないだろう。加えて手取り足取りの実行支援も、「人」である私がAIよりも貢献できる部分ではないだろうか。

●シン化と言献

私は、心理学・脳科学の理論を踏まえた経営コンサルティングと教育を心がけている。このアプローチは今後も変わらずにシン化(進化・深化・新化)させていきたい。時代の急激な変化や社会的ニーズの高度化への対応は大変キツイものがあるが、気が続く限りは自身のスキルとマインドをアップデートし、自らの成長を通じて、顧客の成長に貢献できたらし幸せである。

15人の経営コンサルタントによる
生産性向上策
～企業の成長と、働く人のウェルビーイングを目指して～

公認講師 大場 正彦 日本生産性本部
コソルティンク 代表

生産性の本質は前向きな、明日は今日に勝るといふ精神が、世界を動かす。できるだけ良い方へ、少しでも前へ。企業の成長と、働く人のウェルビーイングを目指して。あなたの明日は、どんなだろう。いつより前へ。

公認講師 大場 正彦 日本生産性本部
コソルティンク 代表

Chapter 1: 高齢者の戦力化と生産性向上

労働力不足の時代において、従業員の確保と戦力化は企業の生産性の維持・向上に不可欠であり、高齢者雇用はその大きな手段である。しかしながら、高齢者の活用については法令対応に留まり、戦力として活躍してもらうという視点が弱い。自社に適合した経験・スキルを蓄積してきた高齢者の意欲を引き出し活躍してもらう施策が今求められている。

のが続く限りは自身のスキルとマインドをアップデートし、自らの成長を通じて、顧客の成長に貢献できたらし幸せである。